

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	橋りょう補修事業	会計	一般会計	事業No.	572	施策順No.	44-006
		事業種別	政策・重点	予算科目	8-2-4-10-1		
政策	4 暮らしと生命を守る安全安心で快適なまちづくり			課等名	土木課		
施策	44 交通機関と道路の充実		事業期間	開始	終了		

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	飯田市で管理する橋梁						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		橋梁数	917	917	926	926	926	
	意図	安全に通行できる橋梁。						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	単年度維持補修か所数:か所	7	9	10	4	10	4	A
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】		欄干の補修や塗装、舗装は行ったが、橋梁自体を延命させる橋台や床版、目地などの工事は出来なかった。						

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>○維持補修の必要な橋梁に補修工事を実施し、安全に通行できる橋梁とする。</li> <li>・床版、桁、橋脚、橋台、目地部、転落防止施設等の維持補修工事。</li> </ul>		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 橋梁維持補修工事 2 道路更新防災対策事業(城下橋)	1 工事施工個所数 2 橋梁設計委託数	1 10カ所 2 1カ所
23年度実施計画	1 橋梁塗装補修工事(南信濃:川合橋) 2 橋梁維持補修工事 3 道路更新防災対策事業(城下橋)	1 工事施工個所数 2 工事施工個所数 3 工事施工個所数	1 1カ所 2 4カ所 3 1カ所

3 事業コスト

事業費	特定財源	国庫支出金	35,000	717	特定財源内訳、補足事項 (国)道路更新防災等対策事業補助金(1/2) (地)一般公共(充当率100%) 22→23繰越明許費 69,503千円
		県支出金			
		起債	35,000	800	
		その他			
	一般財源	計 (A)	77,117	7,612	
	正規職員所要時間		200		
	臨時職員等所要時間				
	人件費計 (B)		715		
	トータルコスト A+B		8,327		

4 事業に対する市民や議会の意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民からの補修要望及び議会からの要望が出されている。</li> <li>・維持管理に関する予算確保を議会から求められている。</li> </ul>
---

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	施策の成果指標又はムトス指標	市民、市内滞り者、財産、事業者が、便利で安全に移動ができる	市内の移動に不便を感じる市民の割合(道路):%
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り		橋りょう補修を行うことにより、安全で円滑に移動することができた。	
	後期に向けた課題		老朽化した橋梁が増加し、補修・架け替えによる費用の増加が予想される。	
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り		特になし。	
	後期に向けた課題		特になし。	
コストを削減するためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り		特になし。	
	後期に向けた課題		老朽化した橋梁が増加し、補修・架け替えによる費用の増加が予想される。	
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り		市が管理する橋梁であり負担は求めない。	
	後期に向けた課題		老朽化した橋梁が増加し、補修・架け替えによる費用の増加が予想される。	
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをしてみましたか、又は、配慮してききましたか	4年間の振り返り			
	後期に向けた課題			
全体を通じて	4年間の振り返り		特になし。	
	後期に向けた課題		平成26年度以降も橋梁の補修・架け替えの補助を受けるために、早期に橋梁点検を完了し、平成25年度までに橋梁長寿命化修繕計画を策定しなければならない。	

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input checked="" type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	--	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	--------------------------------	-----------------------------------